

インテック エグゼクティブセミナー

2010 開催



インテックは8月27日から29日まで、本社を置く富山でエグゼクティブセミナーを開催しました。インテックをより深く知っていただく機会として毎年この時期に開催しており、今年は全国から約20名のお客さまがインテック大山研修センターでの2泊3日のセミナーに参加されました。

初日には、金岡克己社長の歓迎挨拶、参加者の自己紹介の後、薬種商の館「金岡邸」を訪問し、富山の売薬の歴史に触れました。

2日目のセミナーではまず、中尾哲雄会長が「富山から」と題して、富山の歴史とインテックの歩みについて紹介しました。続いて、株式会社一柳アソシエイツの一柳良雄代表取締役、東京大学大学院情報学環の西垣通教授の基調講演が行われました。講演終了後、参加者は「越中八尾おわら風の盆」前夜祭を訪れ、哀調を帯びた歌声と踊り、胡弓の音色を楽しみました。

基調講演



株式会社一柳アソシエイツ
代表取締役&CEO

一柳良雄氏

Yoshio Ichiryu

不透明な時代における経営とは

先行き不透明な時代とは、それだけ多様な可能性が開いている時代。従来の枠を取り払って発想するクセをつけてほしい。そのために社内では、日頃の行動の中で枠を越えた発想が出てくる仕組みを作ることだ。例えば自身の後任を決めるときに、他部門の人材を必ず一人候補に入れる制度にすることで、必然的に他組織にも視野が広がり、社内の横串と新しいアイデアが生まれてくる。

そして、「楽しかった、また会いたい」と相手から言ってもらえるような魅力を身につけるよう人間力を高めること。大きな夢を持つことで、考える幅、情報収集の幅も広がる。自身と自社の強みをベースとした価値をアジア・世界のマーケットに展開していただきたい。

基調講演

2



東京大学大学院
情報学環教授

西垣 通氏

Toru Nishigaki

ネットからの人間再考

ネットゲームにはまって引きこもる「ネトゲ廃人」など、リアルな自己を見失って不安に陥る人々が増えている。言語による論理的分析を重視する近代文明のもとで、「言語的自己」は肥大化し「身体的自己」はやせ衰えてきた。それをITは助長してきたといえる。

社会全体が巨大機械化する中、人間の部品化、社会の数量化が進み、身体感覚と結びついたリアルな「自己」は希薄化している。その結果、ストレスによる精神疾患が急増した。

人間は機械的な存在ではなく、心は身体なしに存在しえない。ITの有用性は言うまでもないが、今後は身体感覚や生命的組織を支えるような新たなITが必要である。